

ウォーキングで知る住人の変化 (年取るといふこと日誌から)

CL教育研究会 遠間美保子
amhotm@gmail.com <https://docl.jp>



2021/3/16

記憶力が低下しているのに、ピンクと黒のトレーナーでウォーキングをしていると、年寄りと見るより土地勘のある人と見られるのか、たまに道を聞かれる。先日は「いきいきセンター」(老人いこいの家)への道を尋ねられ、中高年のスーツとコート姿の男性に間違っではないが、遠回りに教えてしまった。しばらくはそこを通る度に、余計に歩かせた申し訳なさや、尋ねた人にとって運動になったかもしれないとか、逆方向だったにしてもどうして近い方の道が思いつかなかったのかの自問が湧いた。「どんな感情も時間の流れで静かになる」通り、今はまったく湧いてこない。

ところが今朝は人通りのない墓地の裏道で、きれいに装った中高年らしき女性に最寄りの駅までの道を聞かれた。先回の記憶がちらっとよぎったおかげで、とっさに答えず、頭で地図をシュミレーションして確認してから、相手にわかりやすく答えた。これもCLの教えどおり失敗は活かされる。

4/25

ウォーキングのコースはだいたい5通りで、今の住所に移って20年近く週に一、二度は同じ道を通る。たくさんの住宅の前を通り、最近古くから建っている広い宅地の家々が更地となり、数軒の新しい家が建ち並ぶ。家は変わらないが、住人の変化に気づくことがある。

門があいたままのある家は高齢の男性が洗濯物を干したり、玄関外でよく見かけたが、つい2週間前から若い男性が自転車を買って玄関前に止めたり、洗濯物を干している。今朝は2階の窓に少しの男物の干し物があった。どうもその若者のお父さんはその家からいなくなった様子。

別の家では、毎年バラの花を2階屋の家を取り囲むほど美しく咲かせていたその家のご主人をみかけなくなった。バラは咲き始めたが、いままでと違ってパラパラで手が行き届いていないのがわかる。先週は奥さんらしい人が庭にいるのをみかけた。10年近く女性をみかけたことはなかった。ご主人に声をかけたことはあるが、口数の少ない人だった。この時期は通る度に庭でバラや植木を丹精されるご主人をみかけた。そういえば冬から姿を見ない。病気にでもなったのだろうか。この当たりでは一番のバラ庭園だったのに。

20年近く前に割と大きな新築の家に親子4人が住んでいた。子供は小、中学生ほど。お母さんといっしょに門前で数回見かけた。2、3年したかどうか、お母さんと子供たちをまったく見かけなくなった。雨戸がしまったまま。その家の塀から見える白と紅色の桃の花と雪柳は毎年咲き、少しずつ大きくなって目を楽しませてくれる。盗難除けか人が居るとわかるように、植木の道具やごみ袋が縁側に置いてあったり、外の物置の上に箱が置かれたり、セコムのシールも貼られた。週末は住人がいるようだが、平日は仕事で留守の様子。ところが最近は庭や門周りに人の気配があり、在宅が多くなった様子。コロナのせいか、それとも定年の時期かもしれない。

我が家のすぐ近隣では、お隣さんの90代のおばあさんが亡くなり、長男夫婦の奥さんの体が衰え二人でべつ場所に移っていった。その先の家の奥さんとは一年に一、二度立ち話をしたが、娘さんが引っ越してきて、施設に入ったらしいお父さんとお母さんの介護をされている。その娘さんと言葉を交わすようになった。お父様は2年前に亡くなったそうだ。建物だけではわからない時の流れは、人の移り変わりに現れる。私たちにもそのうち…。(千葉県市川市CLインストラクター)